梅の開花（菅刈公園）、河津桜の最初の一輪（西郷山公園）[2012/3/5]

今年は寒い日がつづき、町歩き好きにとっては少々、きびしい冬になってしまいました。もう今週後半は3月という日曜、昨日の冷たい雨は止みましたが、どんよりと曇って、気温は上がらず、震えながらの散歩です。（風がないだけ若干楽です。）新宿都庁前スタートの東京マラソンに参加のランナーにとっては日差しも風もなく、気温は落ち着いて絶好のコンディションなのでしょうか。

そんな寒さのなか、この日は梅の花の開花に出くわしました。菅刈公園の梅の木が花を咲かせ始めています。

手前の木は紅梅でしょうか、まだつぼみも堅いという状況ですが、向こう側の白梅は気の早い私にとっては、もう鑑賞に耐えられそうな咲き方です。

早い年ならば2月の中頃には見ごろを迎えるのが梅ですが、今年は3月に入ってからが見ごろみたいです。この咲き具合なら今週の後半にはグッと見ごろに近づき、紅い梅もすぐ後につづいてくれるのではないでしょうか。まだつぼみの堅い梅の木のてっぺんではメジロが3羽、私と同様に開花を待っています。

梅の花を探して今度は西郷山公園に移動。しかしながら日当たりのためか、木の種類のためか、こちらの梅はまだつぼみという状況でした。それでもいくつかの木は白い花を開かせ始めたようで、やはり今週末には華やかな感じになってくれるかもしれません。紅い梅のほうはもう少し時間がかかりそうです。ところで西郷山公園のほぼ中央に河津桜があります。

伊豆の河津の桜も今年は開花が遅れ、まだ見ごろに達していないそうですし、当然東京のこの河津桜の開花にもまだ時間はかかりそうです。

つぼみはちゃんとついていますが、まだ固いです。それでもよ～く見ると一輪だけ開花していました。

まだ茶色のつぼみが多いなか、黄緑色に変化している早熟なつぼみに混じってピンクになったつぼみを挟んで花びらがふたつ。おそらく、この花を今年の、西郷山公園の桜の開花第一号と言っていいのではないでしょうか。

このぶんだと、寒さももう少しの辛抱です。

雪の朝倉庭園[2012/3/9]

西郷山公園で河津桜の花を見つけたわずか3日後の朝、大変な雪でした。このような雪は春を迎える前にはよくあることですが、本当にたくさん降りました。夜の雪ではなく、明るくなってからの雪なので外出には支障を来たしましたが、雪景色として目を楽しませてくれるものにもなりました。

ここに雪が積もったら、すばらしい情景がひろがるだろうと感じていた場所はいくつかあるのですが、近くてすぎに足を運べそうな場所にあるのが朝倉家住宅の庭です。昼休みを早めにとって、11時半くらいに激しく降る雪の中、足元に注意しながら訪ねてみました。坂があるので転倒に注意してたどり着いた、そこはやはり訪ねるに値する場所でした。観覧料100円を払って敷地に入るとすれ違った管理の人から、「オープン以来最高の雪の積り方です。」と説明がありました。期待以上の雪景色です。

進んで庭に入るとさらに見事に銀世界。足元が気になるので、ここからは傘をたたんで、両手が使える態勢で慎重に歩を進めながらデジカメのシャッターを押します。（写真には納まりきれない景色です。ここに立って味わえる感じはこんなものではないのですが。）

室内から雪の降り続く庭を眺めようと次は建物内へ。今度は体が濡れる心配のない状況で、まさに雪見です。まずは一階の会議室からの眺め。窓の向こうは動く絵画のようです。しばらくは誰も来ないこの部屋の長椅子に腰かけてぼんやりと降り積もる雪を眺めます。誰にも邪魔されず、まったく贅沢なひととき。

奥に進んで和室横の廊下からはこの景色です。

次は二階です。広間の廊下からの景色です。

もう一度一階に降りて応接間の廊下から。

その後また会議室の長椅子に腰かけて雪景色を眺めます。ゆっくりと時間が流れ、他に誰も訪れる人はいません。こんな素晴らしい時間を持てるのが今自分だけかと大変もったいなく感じます。次にこんな雪景色を見られるときはいったいいつになるだろう。

そのうち、時間は12時半を過ぎ、自分も午後の仕事に戻らなければならない時間です。今日が休日だったらもっと長くここで過ごせたと思いつつ、小一時間こんなときを味わえたことに感謝して朝倉家住宅を出ました。ここは代官山駅のすぐ近く、隣はヒルサイドテラスです。まったく奇跡のような空間です。最後に庭の写真を大きなサイズでもう二枚。

早朝の桜[2012/4/16]

年々人出が増える、桜シーズンの目黒川。昨年に続き開花が遅れた今年は4月に入って、連日大賑わいです。特に夕方からは普通に通行することが困難なほどで、外出や帰宅の時間が人出の時間と重なると駅周辺を抜けるのがもう大変。改修工事中の中目黒駅ではついに出口専用臨時改札口が出現するくらいです。でもこの時期は周辺のお店は1年で一番の稼ぎ時です、地元の繁栄のために少々の不自由は我慢しなければいけません。そんな目黒川も早朝は静かで、桜見物には最適です。通行する人はまばらで夜だったら身動きとれない川沿いの道がほぼ無人の状態です。（朝5時半ころ）

（西側）

（東側）

目黒川の桜は川に張り出した花を橋から覗くというスタイルが定番なのですが、人の多さで昼も夜もじっくりとは見ていられません。しかし、この時間だと、どの橋からも写真撮り放題です、駅近くの日の出橋から順番に北に移動しながらパシャ、パシャと。

（日の出橋から南に向かって）

（日の出橋から北に向かって）

（別所橋から南に向かって）

（別所橋から北に向かって）

（桜橋から南に向かって）

（桜橋から北に向かって）

（宿山橋から南に向かって）

（宿山橋から北に向かって）

（朝日橋から南に向かって）

（朝日橋から北に向かって）

（緑橋から南に向かって）

（緑橋から北に向かって）

（天神橋から南に向かって）

（天神橋から北に向かって）

（千歳橋から南に向かって）

（千歳橋から北に向かって）

どの橋からも、今はまさに花らんまんです。見える景色が微妙に違うようでもあり、同じようでもあり、それは感じ方ひとつなのでしょうか。

桜も橋もまだつづきますが、このくらいにして人が増えてくる前に帰宅しよう。明日は花散らしの雨が降るらしく、この景色は今日までなのかな。花が散りだしたら、次は花筏が楽しめそうですが。

古民家の端午の節句飾り[2012/5/9]

都立大駅近くでの所用をすませ、久しぶりに、すずめのお宿公園内の古民家を覗いてみました。この時期、鯉のぼりと端午の節句飾りがあるとのことで、今にも雨が降り出しそうな天気のなか、足を伸ばしたのです。お天気の影響でしょうか、この日、鯉のぼりは残念ながら支柱にたなびいてはいません。近くの廊下に鯉のぼりと書いた箱があったので、晴れたらきっとここから出して飾られるのでしょう。

鯉のぼりはなかったですが、節句飾りは外部からもはっきり確認できました。和室にこじんまりと飾られている兜飾りと武者人形は建物の雰囲気にマッチしています。硝子ケース入りの武者人形が妙になつかしい。

定番と言っていいのかもしれないマサカリをかまえた金太郎と武者人形3体、そして白馬が雛壇の前に並びます。伺った説明によれば兜飾りはこの建物の移築時に買い求めたもので、武者人形は栗山家（この古民家の主）に実際にあったものらしいです。兜飾りはそんなに古いものではないが建物をいぶす煙で年代物のような色合いになっていると説明を受けました。

この日も係りの方から色々と楽しいお話を聞いたのですが、そのなかから受け売りでウンチクを二つ。

この古民家も入るとまず、タタキと呼ばれる土間が広がっています。この土間は三和土と書いてタタキと読みます。タタキはその読み方のとおり、土を叩いて固めるので、タタキと云うのですが、材料は土と石灰にニガリの3種類とのことです。この3種類の材料を混ぜて使う、三つを和ませて使うから三和土としたと。まずタタキという呼び名ができて、三和土という字をあてたのでしょうか。

もうひとつ、建物の入り口横に竹に差して上品に飾られていた小さなブルーの花について。名を「諸葛菜（しょかつさい）」というそうです。

諸葛孔明が戦場で食糧用に栽培したことがこの名の謂れとか。「もっとも諸葛孔明よりずっと後に日本で名前が付けられたそうですけど。」と付け足し説明がありました。目黒区内のある校長先生が熱心に各所に植えて、今では区内の色々なところでこの植物が見られるそうです。実際、ここから都立大駅まで歩いていく途中で目黒通り沿いの植え込みにこの花が咲いているのを見つけました。この時期、春に咲く植物、諸葛菜です。

建物も見学するに十分の立派なものですが、係りの方の説明を聞くことで、さらに有意義な時間を過ごせた気がします。端午飾りの次のイベントは七夕飾りとのことです。そのころにまた覗きに来ましょうか。

中目黒公園で日食観察[2012/5/29]

何十年、何百年に一度と聞くと、どうしても反応してしまうのは人間みな同じ。普段、星や空にほとんど興味を持たない私も俄か天体ファンとなり、21日の日食の日が近付くと当日はどこから眺めようかと近所をうろうろと物色。東の空を広く見通せる場所として観察場所と決めたのが中目黒公園の西北端にあるベンチでした。曇り予報の当日朝、6時少し前に出かけて、太陽が欠け始めるらしい6時10分過ぎにはその木製ベンチに腰掛け準備万端。すでに数人は芝生に腰を下ろしたり、一眼レフカメラの準備をしたりしていますが、思ったより人はまばらでした。

さて、肝心の空模様は予報通りの曇り。ちょうど恵比寿ガーデンプレイスの上空に見えるはずの太陽は雲の中。皮肉なことに太陽にかからない共済病院側の、北東の空は青く晴れています。

人が徐々に増えてきたと思ったら、6時半からラジオ体操が始まりました。いつもここで体操されている、この方たちは体操終わりで日食見物なのでしょうか。早朝から山手通り沿いの工事現場ではクレーンが動いています。建設現場の朝はさすがに早いです。この建設中の鉄骨の最上からも日食が良く見渡せそうです。

太陽は雲の中から時々姿を見せてくれまして、姿を見せる度に右上から欠け方が少しずつ大きくなります。普段、月が見せる欠け方を太陽がするので、「三日月みたい。」と感じてしまうのですが、それは太陽に失礼なのでしょうか。これからの数10分間、日本中の多くの方が確認したのと同じ太陽の変化を私も中目黒公園で周囲の皆さんと一緒に経験させてもらいました。雲から姿をちょっと出し、また隠れ、そして姿を出す毎に、徐々に金環日食と呼ぶにふさわしい形に近づきます。そして7時半ころに外側に欠けがない、金環の形になって現れたときは拍手が上がりました。雲が濃いので金色の光ではなく白く感じる光で金環というより白環という印象ですが、感激の光景です。東京では同時に百万以上の人が同じ、雲の間から時々現れる太陽を見て感激したのでしょう。お台場など、場所によっては何百人もの人が押しかけたのでしょうが、中目黒公園でも数十人がこんな感じで空を見上げました。

数分間、金環の形を確認できましたがその後、太陽は徐々に左下が欠けた形に変化し、日食は後半戦に。欠け始めたときから

と同じ時間をかけて元にもどるのでしょうが、それまで観察する余裕はなく、7時40分過ぎには公園を離れました。俄かファンなりの楽しみ方ができ、満足して帰宅、仕事準備にかかりました。

梅雨入り前の深緑（九品仏浄真寺）[2012/6/18]

6月5日を過ぎても今年はまだ梅雨入り前。しかし南九州はすでに梅雨に入り、週末の東京は天気が崩れる予報で、次の雨で関東も梅雨入りかとニュースは伝えていました。そんな状況でも、スカッと晴れた金曜日に汗をかきながらの九品仏を訪ねました。仕事の合間、ちょっと時間があったので自由が丘駅から徒歩で10分くらい、時間つぶしにはちょうど良い距離でした。梅雨のじとじとは気分が重いけど、この時期、晴れると結構暑い。でも到着すると、さわやかな光景が広がりました。東門をくぐったら即、濃い緑の出迎えです。

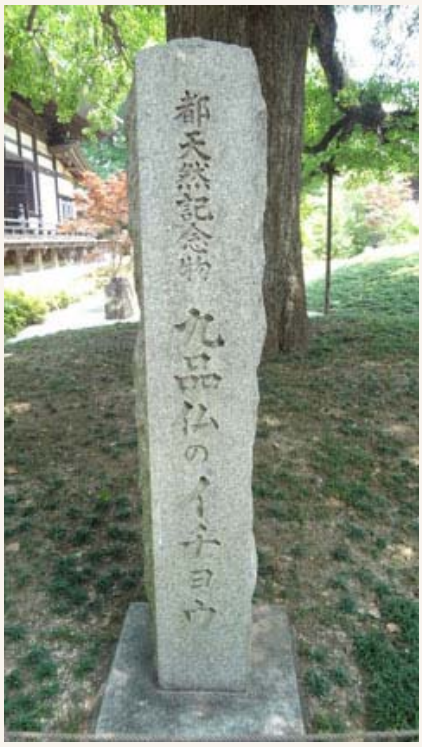
門をくぐって進めば、こんなに豊富な緑が。木々が強い日差しから守ってくれて、見た目だけでなく、実際に涼しさを感じます。木々の向こうに有名な楼門が見えます。

実は5月の上旬に訪ねたばかりの九品仏浄真寺ですが、この時期、日々木が成長しているのでしょう、印象がかなり違います。確実に緑が多くなっている。楼門は近付くと本当に大きくて存在感あります。左右の仁王像もかなりの迫力。

楼門をくぐるとその向こうには楓の木が並びます。

紅葉がきれいであろう楓は緑の葉も良いです。葉、枝に元気が満ちています。

そしてこの銀杏の大木がそそり立ちます。都天然記念物の表示もあります。



この銀杏の葉も元気な緑色。銀杏や楓は、紅葉を好みがちな私たちですが、この時期も見る価値十分です。

とにかく庭中の木がみんなこんなにも元気です。日差しも明るく、庭に生命力があふれています。

さらに進み、本堂、九品仏の由来となった三仏堂を覗きます。九品仏に来て、木ばかり見て帰ったのでは勿体ないですし。緑の向こうに見えるお堂の姿もまた絵になります。

三仏堂は3つを同時に納めることはできないので真ん中のお堂だけ撮影。3年ごとに、このお堂間で行われるのが有名なお面かぶり、次回は2年後の平成26年ですか。

桜の季節ではなく、紅葉の季節でもなく、鷺草も咲く前の時期ですが、濃い緑で十分に目の保養ができました。
最後に閻魔堂に入って、閻魔様と葬頭河婆にごあいさつ。怖そうなお二人に手を合わせてから、現実の世界に戻るため自由が丘駅方向に足を向けました。

雨と紫陽花と水車 [2012/6/28]

天気が良ければ池の周りのベンチにはのんびりとくつろぐ人がいて、遊具や砂場では子供たちが元気に走りまわる鍋島松濤公園ですが、予報通りの雨となった日の午後、まったく人はまばらでした。先日の午後に通り抜けた時は、さすが松濤という場所ですね、英語ではしゃぐ子供たちが楽しそうにしていた砂場もからっぽです。

その砂場、ブランコの向こうに梅雨時の主役の紫陽花が見えます。近所でも気にしてみると、紫陽花は結構見つけることができますが、ここではその紫陽花が池の周りの通路をこじんまりと彩っています。

時期がまだ少し早いのか、紫陽花自信がまだ成長段階なのか鎌倉の紫陽花寺などとは比べようもありませんが、何年か経てばもっと豪華な姿に変わっていきそうな気がします。そしてこの池には水車小屋があります。紫陽花が華やかに成長して水車回りを飾れば、なかなかのスポットになりそうですよね。

そんなことを考えながら池の周りで写真を撮っていたら、雨足が強くなりました。強い雨です、濡れる前に急いで帰ろう。

この雨は台風接近に伴うものということで、この後は大荒れの天気らしい。紫陽花にも水車にも他の木々も今晩の雨風の被害がありませんように。

「目黒雅叙園の百段階段」[2012/07/20]

目黒雅叙園で「文化財百段階段で観る目黒と雅叙園の魅力展」が開催されています。ぜひとも見ておきたいと思っていた百段階段をついに見てきました。

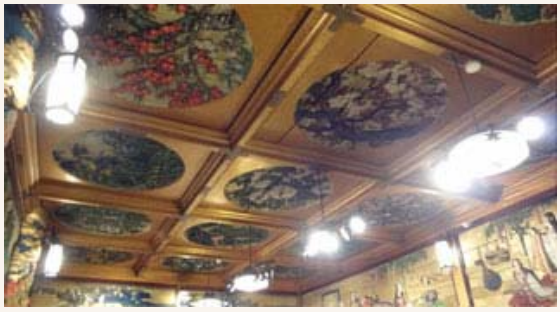
外出のついでに立ち寄ったのですが、そんな簡単な気持ちで観るのは失礼な催しでした。じっくり時間をかけて観ないともったいない。正面玄関横には観光バスが駐車され、東京観光ツアーのひとつに百段階段の見学が組み込まれているようです。地方ナンバーです、遠方から観光に来ているバスなのでしょう。

バス横を通って正面玄関へと進みます。いつ来ても入っていく時は少し緊張してしまう重厚な雰囲気です。

入るとすぐ左側に受付があり、ツアー客らしき人々が大勢でエレベータの到着を待っていました。人の多さに尻込みしながら、受付で健康保険証を提示して、目黒区民料金の500円（通常800円）にてチケット購入。1時間毎に無料ガイドがあるとのことで、その案内を待つツアー客（言葉から関西方面の人たちみたいでした。ツアーはスカイツリー見物がメインなのかな。）の列に私も、ついてエレベータを待ちます。待つ人が多くてエレベータには一度に乗り切れず、次の到着を待ちます。このときの無料ガイド参加者だけでエレベータ2回分の人数です。2回分といっても、47人乗りエレベータです、相当な人数になってしまいます。まず、このエレベータにビックリです。ドアが開いた時、その広さと豪華に思わず声が出てしまいそう。広いし、天井が高い。そして唐獅子牡丹が描かれた漆仕上げの壁。エレベータから別世界が始まっています。

会場まで昇ってエレベータを降りればそこでは、ガイドが始まるのを待つ人たちが溢れるほど。ガイドが始まるとすぐ、この大人数についていくより、一人で観て回ったほうが良いだろうと判断し、数十人を追い越して先に進みます。指定箇所から、靴を脱いで進むと雰囲気がガラリと変わり、木造の部分が見えてきました。百段階段と呼ばれるところに到着です。写真撮影不可なので、残念ですが、下から見上げる百段階段、一気にタイムスリップです。そして昭和の竜宮城への入口を一段ずつ登っていきます。

昭和初期の雰囲気そのままに99段の階段（なぜ百段階段が99段なのかの解説は途中にあります。）が7つの部屋をつないでいます。下から十畝の間、魚樵の間、草丘の間、静水の間、星光の間、清方の間、頂上の間とつづきます。各部屋、用途もそれぞれということで違った雰囲気でもあり、また統一された部分も感じられ、不思議な空間です。ただ、どの部屋も豪華絢爛で、教養深いというわけでない庶民にも味わえる昭和の竜宮城、別世界を作り出すことにこだわった創業者の考えが伝わってきます。唯一写真が許されている魚樵の間を遠慮気味に撮った写真です。こんな部屋でした。（フラッシュ撮影禁止なのできれいに写りませんでした。現物はもっと艶やかです。）



小一時間かけて観たのですが、説明板を全部読んだり、ビデオを観たりしたら、半日かけても良いくらいです。今回の展示は8月19日まで、時間を作って開催中にもう一度観にいきたいと思います。なるべく人の少ない時にゆっくりと。

2012年　夏景色　(前半)[2012/08/21]

今年の夏前半は何といってもオリンピックが話題の中心。そのオリンピックが始まった7月最後の週末の金曜、土曜と恵比寿駅前祭りでした。夕方から櫓を中心に盆踊りが始まって、踊りの周りを見物客が取り囲み、大賑わい。8時近くになった金曜の帰宅、恵比寿駅から中目黒まで、わざと日比谷線には乗らず、会場横を歩いて見物。雰囲気だけ味わいました。

その翌週の土、日は中目黒夏まつり。こちらも踊りの祭り。中目黒駅の周辺の通りを交通規制して踊りを競い合うお祭り。土曜が"阿波踊り"で、日曜が"よさこい"という賑やかなイベントです。

このお祭りの主役は踊る人たちです。そして踊りの会場が一般道路のため、関係者の御苦労は大変なもの。土曜に暗くなって、囃子の音が聞こえてきてから覗いてみました。

各所、人や車両の誘導が忙しそう。その規制の中で阿波踊りを連と呼ばれる各グループが日ごろの練習の成果を披露しているのですね。肝心なその踊りには近づくのが大変なので、何も見ずに帰ります。翌日、近寄れなかった東横線のガード沿いに、折りたたみ椅子が並べられているのを見かけました。この椅子に座るのは見物の人なのでしょうか。この夜は"よさこい"開催ですが、私の場合、ここで踊りを見るより、テレビでオリンピック観戦だなあ。オリンピックは中盤の折り返しの時期です。

近年の夏は本当に暑さが違う。その暑さに慣れたのでしょうか、35度まで気温が上がる日がない今年は一昨年、昨年から比

べると若干楽な気がします。それでもカンカンに晴れた昼、出歩くときは日陰をさがしながらになります。ある日、恨めしげにカンカンの空を見上げると雲ひとつない快晴。その日の真っ青な空に中目黒駅前のアトラスタワーです。そびえ立つ感じで、足を止めて思わず眺めてしまいました。

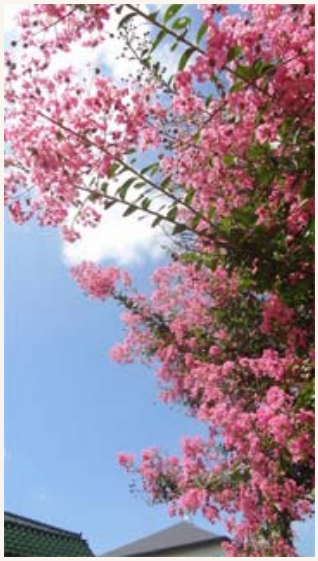
　同じ日に少し場所をかえて、目黒清掃工場の煙突です。青い空に向かって真っすぐに白い煙突。曇った日より煙突が高く感じます。信号機の柱の横にちらりとガーデンプレイス。信号機が入らないように写真撮れば良かったと後で後悔。

　こんな雲ひとつない空の日でも、突然もくもくと積乱雲が発生、強い雨が降り出すというのが夏の日。近年では、「ひと雨くれば涼しくなって良い。」なんて呑気に言っていられないくらいの豪雨になることが度々。この日はその雨もなく、夜はひたすら暑い熱帯夜となりました。

オリンピックも終わった月曜、蛇崩緑道で、ほぼ満開の樹を撮影。ピンクの小さな花ですが、香りに誘われたミツバチやクマンバチが飛び交っていました。毎年ここで、この時期咲いていただろうに、今まで気がつきませんでした。何の花なのかと札を覗くと「さるすべり」とありました。

接写するとこんな花です。

さるすべりがこんなに可愛らしいピンクの花をこの時期につけるとは知りませんでした。ツルツルの幹と枝に葉も花も付けない木と思っていましたが、"さるすべりさん"失礼しました。そして夏の空に向かって見上げると、青い空、白い雲、ピンクの花に緑の葉。ちょっと良い絵になりました。



オリンピックは終わりましたが、夏の暑さはまだまだ続きます。体調管理に気をつけて乗り切りましょう。

2012年夏景色（後半）[2012/09/07]

7月に一度行って、もう一度ゆっくり見に来ようと思って帰った雅叙園の百段階段。そのまま8月になって気がつくと開催最終日の19日でした。慌てて、その日曜の午後、見物に出かけました。この日もけっこう人が多く、やはりゆっくりと見ているわけにはいかない感じでした。二度目だからと、他の人に場所を譲る気持ちで遠慮気味に見て回って、1時間くらい、前回あまり見なかったところ中心に見学。他ではまず見られない雰囲気を再度味わいました。そのついでに、滝の裏も巡れるとパンフレットにあったお庭も見物。

さすがに豪華なお庭で池の鯉もおそらくお高いのでしょう。

夏はやはり水の近くが良いです。滝は見ているだけで涼しくなります。

そしてこの滝の裏に回るとこんな状況です。暗い通路から明るい滝の向こうが眩しい。

滝をもうひとつ。西郷山公園の滝です。子供たちが水遊びできる公園の小川の水がそのまま滝になって菅刈保育園の裏のところまで流れ落ちます。幅は小さいですが高低差はかなりあります。流れを途中でまたぐ橋（？）から覗くと、この暑い時期だとずっと見ていたくなります。滝の始まりのところから白いしぶきが流れ出し、草木の間を石をつたって落ちてきます。

同じ橋から下を見下ろすと、そのしぶきがやはり草木の間に吸い込まれて見えなくなります。

見えなくなった水が最後に保育園の裏に滝らしい姿で池に流れ込みます。

ここの池には魚はいないようです。池の横にはさるすべりが咲いていました。

ここからさらに西側に坂を下ったとこにあるのが菅刈公園。ついでに脚を伸ばして日本庭園に。訪ねたのは平日の午後で、庭園内はひとり、ふたりの感じ。のんびりできる落ち着いた雰囲気です。都会の公園らしく緑の向こうに最近建った高層ビルが見え

ます。

ここには普通に鯉がいます。色とりどりだった雅叙園の池とは違って黒い鯉だけ。庭園の雰囲気にはこの方が合っているのかな。

昨年も楽しんだブドウ狩りですが、今年は25日（土）が初日でした。その25日に昨年と同じ、八雲の小杉ぶどう園に行ってきました。

本当に近くてお手軽。9時開園から参加して、帰りに佑天寺に寄ってお墓参り、ドトールでアイスコーヒー飲んで帰ってまだ11時。ぶどうも美味しいし。

9月に入ったとたんに天気が荒れ模様、土曜も日曜も空にはあやしい雲が。

（土曜の午後の雲）

（日曜の午前の雲）

傘を持たずに出かけると本降りの雨が落ちてくるし、傘を取りに戻ればその後は降らないし、気まぐれな天気に少々振り回された週末。その1日、2日は天祖神社のお祭りです。お祭りということで、氏子でもないのですが、神社にお参り。日曜の早い時間帯でまだ出店も閉じたまま、人も見当たらない。祭りのお囃子が流れるなか、一人静かにポンポンと手を合わせます。

曇り空で過ごしやすい気温ですが、お祭りの催しの間はどうか天気が崩れませんように。

中秋の名月[2012/10/10]

平成24年の旧暦8月15日は9月30日にあたります。つまり台風17号が直撃した晩の月が「中秋の名月」でした。日曜の夜だったので「お月見」を楽しみにしていた方も多かったでしょう。説明するまでもなく、夕方近くに愛知県に上陸した17号台風はそのまま日本列島を縦断し、東京も日が暮れるころから雨が降り出し、時間の経過とともに風雨が強まりました。一番「お月見」に良い時間帯での上陸だったので、お楽しみは諦めざるを得ない状況だったのですが、この17号台風は上陸後の動きは非常に速く、日付が変わるころには、強かった風もおさまってきました。

完全に雨風がなくなる前に外に出ることは危険なので、午前2時くらいまではじっとしていましたが、外の様子が本当に穏やかに感じたので、2時半ころに外に出て夜空を見上げると、西の空、流れの速い雲の間にまんまるのお月さまがはっきり見えます。まさに中秋の名月。ところが肉眼ではきれいに見えるお月さまですが、写真にはうまく写ってくれません。雲にかかったときの姿の写真です。

（雲にかかった月）

雲から完全に離れた姿はもっと美しいのですが、私の知識とカメラの性能では次の写真が限界でした。うまく撮るのは難しい。

（雲にかからない状態の月）

誰もいいない蛇崩れ緑道で、真夜中、丑三つ時に夜空にむかってカメラを構えて、首をひねっている自分の姿は、はたからみると異常にうつったでしょう。

葦毛塚（あしげづか）[2012/10/29]

上目黒と五本木と下馬の境に不思議な空間があります。道路の真ん中に小さな林があって、道路はその林を回り込んで伸びています。意識して、この林を残すように道がつくられたのでしょう。

以前、五本木で生まれ育った知り合いの方に、「あの道の真ん中にある林は何なの？」と質問したことがあったのですが、当地

に70年近く住んでいるその方も、よく知らないとのことで、この道路を押しのけて存在する林の謂れを認識している人は少ないのかも知れません。道の真ん中にあって、そこに足を踏み入れる人はほとんどいない、この空間ですが、入ってみると案内板と石碑が並んで立っています。

この場所は古くから葦毛塚と言って、鎌倉時代に葦毛の馬がここで亡くなって、埋められたことからだと書いてあります。葦毛の馬というのは、生まれた時は、黒っぽい毛をしているのですが、年齢を重ねてくると徐々に白い毛が目立ちだし、大人になるころには、ほとんど白馬と言いたくなるような毛色の馬です。（白馬というのは生まれた時から白い毛の馬で、本当に数は少ないです。）おそらく、ここで倒れた時、葦毛馬はもう真っ白の馬になっていたのでしょう。

道を挟んで目黒区五本木と世田谷区下馬なのですが、世田谷区の案内板なので、この葦毛塚は世田谷区になるのですね。案内板に、この辺りには馬に関した地名や伝説が多いとありますが、実際、ここは下馬という地名で、下馬通りもここから始まっているようです。

今年は残暑が長くて、やっと清々しい、秋だと感じることができたのが10月半ばになってから。今後はすぐに寒くなってしまい、今年の秋はあっという間に終わってしまうのでしょうね。

私にとって秋の楽しみのひとつが競馬のGIシリーズなのですが、21日の菊花賞で葦毛の馬が勝ちました。春の皐月賞と秋の菊花賞を制しての2冠馬となりました。葦毛の2冠馬さん、今後のレースで下馬する(ゲバする＝馬が故障して、騎手が馬を降りること)ようなこともなく、無事に競走馬生活を終え、種馬として牧場に元気で戻ってください。

東京ラーメンショー2012年[2012/11/09]

秋も徐々に深まって、気温の低下とともに暖かい食べ物が一層美味しく感じられます。そんなところで、10月の下旬から駒沢公園で開催されていた東京ラーメンショーを覗いてきました。行こうと決めたその日は、朝からヨーグルトとウエハースしか口にせずに仕事につきました。12時半を回ったころ、一区切りついたので、昼食にはちょっと遠出になりますが、駒沢公園までお出かけ。イベント、グルメという言葉に弱く、行列があれば、何に並んでいるのかと気にする、日本人ですね、私も。朝からヨーグルトで我慢したお腹はもう準備ばんたんです。駒沢公園には14時少し前に到着。ランチタイムでは混んでいるのだろうと時間をずらしたつもりですが、盛況です、大勢の人が押しかけていました。会場には20店が横一列にずらっと並んでの出店です。まずは会場のご案内を見て状況を把握。仮設店舗の前にノボリが棚引いています。富山、信州、釜石、沖縄とやはり日本人はラーメン好きですね、全国各地から出店です。特に目当ての店があるわけでもない私はどこに並ぼうかと迷ってしまいます。

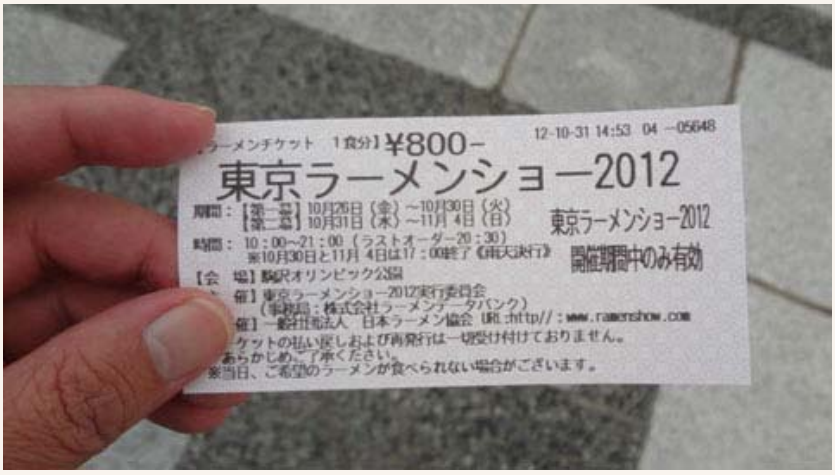
さすがに大きなイベントです、テレビや雑誌でよく見かける有名店の店主が普通に雑談しながら、人の動きを観察していたりします。ラーメンはどの店も一律一杯8百円で、あらかじめチケットを用意しなければなりません。そういう訳でまず、チケット売り場をさがすことに。駒沢通りから入って行くと一番奥のところにチケット売り場を発見、その列に並びます。

朝から、腹を空かして来ています、せっかく来たのだから2杯は大丈夫だろうと、チケットは2枚購入。ラーメンショーのパンフレットも一部、頂いて。

それでは店選びということですが、どの店のラーメンも美味しいでしょうから、こういう機会でないと口にできないだろう地方のラーメンにしようかな。それから余り行列の長い店も時間がかかりそうなので、やめてと。そういう感じから一杯目はまず仙台牛たん担担麺を。

列について10分くらいでしょうか、この日最初の食事となったラーメンはこの担担麺です。パンフレットには手作り牛たんしぐれと魚介出汁の旨みたっぷりの担担麺とありますが自分にはよくわかりません。テーブル席が用意されたテントがあるのですが、人がいっぱいなので、そこには入らず立ったまま食します。駒沢通り沿いの階段に座り込んでラーメンを食べている人が大勢した理由がこの時わかりました。味は美味しいですが、上手に表現できないので説明しません。食べ終わったら、決められた場所に器と割り箸を捨てて、2杯目を物色、お腹にはまだ余裕があります。2杯目も地方の遠いところのラーメンで、行列も中くらいのお店でと、熊本ラーメンにしました。

今度はさっきよりも少し長く20分くらい待ちました。ふと2～3軒隣の列をみるとレスラーの高山善廣さんと格闘家の小路晃さんの姿が。パンフレッドには格闘技コラボラーメンとあり、それぞれの方が関係のあるお店のコラボらしいです。格闘技好きでプライドは何回も観戦した私としては、「ここは、あの店のラーメンも食べておくべきか。でも熊本ラーメンを食べた後もう一杯、腹に入るか？」そんなことを考えているうちに熊本ラーメンが手元に。 今度は何とか座れそうなテントを見つけてそこで食しました。‘ニンニクと胡麻油、ラードを炊いて作ったベースの黒いスープが特徴‘　とパンフレットにあるラーメンですが、味のレポートはできません。確かに1杯目とはまったく違った味ですが、うまく表現できません。ただ美味しいです。3杯目を意識してスープは残しました。1杯目のとき、飲み干してしまったスープがお腹に利いてくるか？それでも3杯目も行こうと決めて再度チケット売り場に移動して購入。



小路晃さんが「どうぞ、どうぞ」と案内する列に並ぶと横には、ひときわ大きな高山選手が。若い人は気軽に写真撮影をお願いしているのですが、いい年の自分にはそれができない。横目でみながら、3杯目を入手。

鶏と甘海老のがっつり醤油とパンフレットにあるラーメンですが、赤っぽいスープが海老なのでしょう。満腹中枢が「もうやめておけ。」命令を出す前にいってしまおうとズルズルっと胃袋に納めてしまいます。またまたまったく違う味です。3杯目も美味しくいただきました。そして超満腹。

約1時間で3杯食べ、時間はもうすぐ3時。長い昼休みを過ごしたことと一食に2400円使ってしまったことを少々後悔。そして今日は仕事を終えてから、少し運動することを決意。駒沢公園の隣にある、私が建設会社勤務時代に短い期間、その建設現場に通ったことのある国立東京医療センター（当時は国立東京第二病院）を左に見ながら帰路につきました。

師走間近[2012/11/30]

朝、ふとんから抜け出ることに躊躇する季節になりました。目黒川の桜の葉も残りわずか、これから華やかな春までの寒さに耐える準備をしているのでしょう。

11月イベントのひとつが酉の市です。昨年は三の酉まであったので、今年は当然二の酉まで。8日が一の酉、20日が二の酉でした。二の酉の午後6時ころ、大鳥神社を訪ねました。時間も人出の多い時間帯だったのでそれはもう大賑わい、中に入っていくのにも苦労するくらいです。警備員さんの説明にしたがって着いた、お参りの列の最後尾はもう境内の外、大声で説明を続ける警備員さんはとても大変そう。徐々に前に進んで、ようやくお参り、お守りも購入しました。

今年は小さい熊手でも買おうかなと思ったのですが、熊手のお店も大賑わいで、のんびり選んでいる雰囲気ではなく、7時半か

らお約束があったので、駅へと急ぎました。

最近はいろいろなところで、素敵なイルミネーションが目を楽しませてくれますが、中目黒駅前でも、この時期のための明かりが灯ります。

クリスマスソングが流れ出すのも間近、そうなると理由もなく、せわしない気持ちになります。クリスマスソングは毎年のことですが、今年はこの時期にさらにせわしない、大きなイベントが重なりました。蛇崩れ緑道のいつもの場所にもすでに大きな看板がスタンバイしています。

もうすぐ、この看板に何人かの方の写真が貼られ、選挙カーから大きな声が聞こえてくるでしょう。ジングルベルに選挙演説が混じって耳に入ってくる、特別な雰囲気の師走がもう目の前です。

お不動さんも年末年始の準備[2012/12/25]

目黒駅近くに出たついで、ちょっと遠回りして目黒不動に寄り道。今年の12月28日は金曜日です。納めの不動ではいつものように仲間の社労士さんたちと午後4時に集まってお参りという予定です。金曜の夕方ということで仕事納めにもちょうど好都合です。その目黒不動の仁王門をくぐると、この日は横の手水舎の屋根葺き作業の真っ最中でした。年末年始のお参りの本番前に色々と準備をしているようです。

本堂に向かって進むとすでに初詣用に垂れ幕が。この準備はもうできています。

これから、その他にも色々と準備していかなくてはならないことがたくさんあるのでしょうね。そういえば昨年のこの時期は震災で傷んだところの手直しがまだ完了していないみたいで、階段が通行止めになっていた記憶があります。その階段も納めの不動の時にはすでに通行できました。昨年は大きな地震があった影響でいつもの年よりも準備が大変だったのでしょう。その階段を上って本堂にお参り。

納めの不動の日に、またうかがいますが、この日もちょっとお願い。「世の中明るくなりますように。」このお願い実現は日曜の選挙で選ばれた人たちに言った方が良いのかもしれませんが。